

# テレビ番組表からみた現代社会の諸相（その7）

現代社会の総理解のために

伊佐治 大陸

## Aspects of Modern Society Viewed from the Angle of TV Programs (7) Toward An All-Round Understanding of Modern Society

Tairiku ISAJI

### はじめに

「TVにうつつを抜かすのはやめて、もっと勉強に身を入れよう」「TVを見るのは受け身の行為、人生を生き抜く糧にはならぬ。人生とは努力し、成長すること」と全米の学生に訓辞を垂れたのはレーガン大統領である。この発言の背景 (background) として、TV というものを一段低いものとしてとらえる認識と現実に米国の若者達がTVに振りまわされTVを見過ぎることによって理性的判断力を低下させつつあるという状況を読み取ることができる。歌、ニュース、ドラマ、政治など何でもあるのがTVであり、TVはこの世に生起するもの全てを取り扱っている。こうした現代社会の縮図としてのTVを無自覚に視聴し続ける限り、若者達にマイナスの影響を与えることは確かであり、TV批判が出てくるのも一面で大いにうなずける。しかし米国で空前の視聴率を示した「ザ・ディ・アフター」の例を持ち出すまでもなく、TVには人々に現代社会を問い直す誠実な番組も少なくない。要はTVをどのように活用して選択的に視聴するかの工夫のしかたにかかっており、このことは日本においても同様である。

ジョージ・オーウェルは今から35年前に逆ユートピア小説「1984年」を公にし、その中で全体主義的な超大国の支配する悪魔的な未来社会を描いたが、本年はちょうどその1984年に当たる。現実の1984年は彼の描いた逆ユートピアそのものでもなく、また反対に美しいユートピアでもなかった。そのことは、毎日の新聞に掲載されるTV番組表と日々のさまざまなTV「映像」「情報」が我々に証明してくれている。

さて本稿は、「テレビ番組表からみた現代社会の諸相」(その6)の「はじめに」で示した如く、この1年間('83年7月~'84年6月)のTV番組表から抽出して構成された「キーワード・ピクチュアII」の後半部分を扱うものである。「キーワード・ピクチュアII」のブロックV~VIIIまで現代社会の重要な局面にかかわる31のキーワードについて扱う。なお、ブロックVIIIで取り上げる7人の人物の背後には、アンドロポフ(ソ連共産党前書記長)、稲盛和夫(京セラ社長)、植村直己(冒険家)、小川国夫(作家)、G.M.クーパー(ガン研究者)、C.W.ニコル(英国作家)、黒沼ユリ子(バイオリニスト)、ゲリー・ハート(米国民民主党大統領候補)、佐藤藤三郎(農民作家)、ガルブレイス(経済学者)、ダニエル・ベル(社会学者)、都留重人(経済学者)、永野重雄(財界指導者)、野村芳兵衛(生活教育実践家)、三宅一生(デザイナー)、むのたけじ(評論家)、村山ひで

Table 1 Key Words Picture I

1	I N F	Intermediate-Range Nuclear Force
2	アルハンブラ宮殿	Alhambra
3	遺伝子工学	genetic engineering
4	イトウ	Hucho perryi
5	右 脳	right brain
6	エリマキトカゲ	Chlamydosaurus kingi Gray
7	エル・ニーニョ	El Niño
8	おしん	Oshin
9	外食産業	<i>Gaishokusangyo</i>
10	花粉症	hay fever, Heufiever
11	ガンダーラ美術	Arts of Gandhara
12	木下恵介	Keisuke Kinoshita
13	くれない族	<i>Kurenaizoku</i>
14	グレナダ	Grenada
15	コアラ	koala, Phascolarctos cinereus
16	高品位テレビ	HDTV, High-Definition TV
17	高齢化社会	silver society
18	国際科学技術博覧会	EXPO'85, International Science and Technology Exposition
19	小林秀雄	Hideo Kobayashi
20	コピー食品	copy food
21	胡耀邦	Hu Yao-bang
22	斉藤喜博	Kihaku Saito
23	ザ・デイ・アフター	The Day After
24	サラエボ	Sarajevo
25	サリー・ライド	Sally Kristem Ride
26	四万十川	Simanto River
27	習熟度別指導	teaching based on classification by achievement level
28	しらせ	<i>SHIRASE</i>
29	森林浴	Green Shower
30	生徒心得	Pupil's Manners
31	セーシェル共和国	Republic of Seychelles
32	ソグド商人	Sogdian merchants
33	ソフトノミックス	softnomics
34	第2の太陽系	the second solar system
35	ダウン症	Down's syndrome
36	高見山大五郎	Daigoro Takamiyama
37	宅配便	parcel transport service
38	男女雇用平等法案	the bill of fair employment based on sexual equality
39	単身赴任	<i>Tanshinfunin</i>
40	テクノポリス	technopolis
41	登校拒否	school refusal
42	徳山村	Tokuyamamura
43	戸塚ヨットスクール	Tozuka Yacht School
44	ニューメディア	new media
45	ねむの木学園	Nemunoki Gakuen
46	バイオテクノロジー	biotechnology
47	バイオマス	biomass
48	箱庭療法	sand play technique
49	半導体	semiconductor
50	ビタミンK	Vitamin K
51	ブルネイ	Sultanate of Brunei
52	放送衛星	BS-II, Broadcasting Satellite-II
53	ホスピス	hospice
54	ホルムズ海峡	Straight of Hormuz
55	緑の党	Die Grünen
56	メルルーサ	Merlucciidae
57	モン族	the Hmong tribe
58	ラマーズ法	Lamaze Technique
59	レスター・C・サロー	Lester C. Thurow
60	レスポ	LESPO'84, leisure, recreation and sports games

Table 2 Key Words Picture II

ブロックⅠのキーワード	科学技術	18	国際科学技術博覧会
「時事問題」	都市問題	40	テクノポリス
	放送技術	52	放送衛星
	南極観測	28	しらせ
	ロックフィルダム	42	徳山村
	女性問題	38	男女雇用平等法案
ブロックⅡのキーワード	反核・反原発	55	緑の党
「国際問題」	核戦力	1	INF
	中東問題	54	ホルムズ海峡
	米軍侵攻	14	グレナダ
	異常海流気象	7	エル・ニーニョ
	世界現勢	31	セーシェル共和国
		51	ブルネイ
ブロックⅢのキーワード	天文学	34	第2の太陽系
「学芸常識」	四国河川	26	四万十川
	鮭科	4	イトウ
	深海魚	56	メルルーサ
	スペイン建築史	2	アルハンブラ宮殿
	中央アジア史	32	ソグド商人
	仏教美術史	11	ガンダーラ美術
	民族学	57	モン族
ブロックⅣのキーワード	放送技術	16	高品位テレビ
「科学技術・経済問題」	情報技術	44	ニューメディア
	エレクトロニクス	49	半導体
	生命工学	46	バイオテクノロジー
	生物技術	47	バイオマス
	サービス産業	9	外食産業
	経済のソフト化	33	ソフトノミックス
	輸送サービス	37	宅配便
ブロックⅤのキーワード	生命科学	3	遺伝子工学
「現代医学」	大脳研究	5	右脳
	アレルギー	10	花粉症
	健康増進	29	森林浴
	抗出血作用	50	ビタミンK
	自然減痛分娩	58	ラマーズ法
	障害児	35	ダウン症
	医療施設	53	ホスピス
ブロックⅥのキーワード	似せ物食品	20	コピー食品
「現代生活・時代感覚」	転勤	39	単身赴任
	未来学	17	高齢化社会
	有袋目	15	コアラ
	爬虫類	6	エリマキトカゲ
	TVドラマ	8	おしん
	若者用語	13	くれない族
ブロックⅦのキーワード	核戦争TV映画	23	ザ・デイ・アフター
「スポーツ・教育問題」	冬季オリンピック	24	サラエボ
	身障者スポーツ大会	60	レスポ
	学習指導	27	翌熟度別指導
	生徒指導	30	生徒心得
	心理療法	48	箱庭療法
	学校嫌い	41	登校拒否
	いじめ社会	43	戸塚ヨットスクール
	児童福祉	45	ねむの木学園
ブロックⅧのキーワード	宇宙開発	25	サリー・ライド
「TVに登場した7人の人物」	日本映画	12	木下恵介
	批評文学	19	小林秀雄
	中国政治	21	胡耀邦
	教授学研究	22	斉藤喜博
	相撲	36	高見山大五郎
	経済理論	59	レスター・C・サロー

(綴方教師), 森英恵 (デザイナー), 森尾由美 (体操), 山村雄一 (医学者), 吉原耕一郎 (多摩動物園類人猿飼育係), レビ・ストロース (文化人類学者), 若月俊一 (農村医学者) の 23 名が精選もれしている。

## ブロック V のキーワード「現代医学」の理解

### 遺伝子工学

生物が成長し生命を維持していくのは、細胞の中の遺伝子 (DNA) が生体に有用な物質を作ったり細胞分裂を促す指令を出すからである。遺伝子工学は遺伝子そのものや遺伝子の発現機構に人工的な操作を加えて、本来その生物が作らない物質を作らせる技術である。微生物や細胞の遺伝子、又は遺伝子発現機構に人工的な操作をして、元の生物が本来持っていなかった性質を持たせる技術である。

遺伝子工学の中心的手法は遺伝子組み換え (gene recombination) である。これは任意の生物の DNA (デオキシリボ核酸) 断片を異なった生物の DNA 分子につなぎ合わせる操作で、'73 年、米国スタンフォード大のスタンリー・コーエン博士により開発された。彼は高等生物の遺伝子研究に有力な手法を提供した。今日では、ラットの成長ホルモン遺伝子をマウスに組み込ませて、体重が普通の 2 倍もあるスーパーマウスを出現させることができる。ガン予防のためのガン遺伝子研究にも応用されつつある。

遺伝子工学はバイオテクノロジーの中心的技術であり、狭義には遺伝子組み換え技術を指している。遺伝子工学の成果には'80 年代に入って社会的関心が一層強まり、日本でも遺伝子生産物のさまざまな利用が目ざされている。

### 右 脳

人間の脳の左半球と右半球が各々違う役割を果たしていることに着目して、20 年程前から大脳半球機能差研究が盛んになってきた。言語を用いて交信したり、抽象的思考を行うことができるのは人間に特に発達した脳機能であり、言語に意味を与える知覚性言語中枢や言語を音声に変える運動性言語中枢などの言語野は大多数の人には左の大脳半球にある。

脳機能差研究の成果を一般書的に理解すると、大脳の左半球は合理的思考、西洋的思考、論理性に関係し、一方の右半球は直観的思考、東洋的思考、創造性に関係する。左脳は記憶、計算、論理にたけ、右脳は情操、創意に秀れている。左脳が言語を媒介にした論理的、概念的情報の処理を行うのに対して、右脳はセミのぬけ殻としての概念ではなく、生の現実を見ることによって絵画的なイメージ情報を処理する。

左脳人間は論理的人間であり、右脳人間は芸術家的人間である。右脳人間は創造性に富み、感性でものを考える。台本なしに自由に即興的にしゃべることができる。得手・不得手があるのはどちらの脳が活発に働くかによるが、実際には両側の脳がお互いに作用しあい、協力して人間は考えたり行動している。

### 花 粉 症

1819 年、英国の John Bostock は季節的に再発を繰り返すくしゃみ、熱感、鼻汁の増加、流涙などを訴える患者を認めたが、その症状は夏に枯草に接すると発症するらしいことからこれを枯草熱と呼んだ。その後の研究結果から、枯草との接触により起こる症状は枯草それ自体ではなく、それに繁殖しているカビのためであること、花粉やカビ類の胞子の吸入によっても同じ症状を発症することが明らかとなり、枯草熱の名称は歴史的な名称となった。

最近ではこれを花粉症といい、花粉アレルギー又はアレルギー性鼻炎とも呼んでいる。この症状は春のイネ科の植物の花粉、夏から秋にかけてのブタクサ、カナムグラ、ヨモギなどの花粉との接触な

いし吸入によって起きる。室内塵やカビなどとの接触でも発症する。

鼻水が止まらない、くしゃみが出る、目がかゆい、鼻の奥がムズムズする、体に発赤が出るなど色々な症状を起こす花粉症患者は少なくない。春先にスギの木の花粉が空中浮遊し、この空中花粉によって起きるスギ花粉症は'84年4月のTV番組でも数回取り上げられた。

### 森林浴

'82年夏、秋山林野庁長官が提唱した森林浴は森の中で行う空気浴のことで、これが心身の安定や疲労軽減に最適だとしてとりわけ都会人に認識されつつある。緑豊かな森林に身を委ね、(1)ゆっくり歩行運動すること、(2)休養やリラックスして深呼吸すること、(3)思索や瞑想にふけること——が森林浴のポイントである。

森林浴で気分が爽やかになるのは木々の樹皮などから空気中に発散される芳しい香りのせいである。ほのかですがすがしい森の香りはフィトンチッド (phytoncide) と呼ばれる芳香物質であり、植物がまわりの微生物から身を守るために発している化学物質である。約半世紀前にソ連・レニングラード大のB.P.トーキン博士(発生生物学者)が発見して名づけた。揮発性芳香物質のフィトンチッドは植物(=フィトン)を殺す(=チッド)という意味であり、殺菌作用のあることが医学的に証明されている。その主成分は不飽和炭化水素の一群でテルペン類と呼ばれる。これは植物の花や葉、枝や幹から得られる精油の中に含まれ、殺菌の薬理効果があるため消毒剤、消炎剤、緩下剤としても用いられている。

森のビタミン剤フィトンチッドは殺菌力によって空気を浄化するのみでなく、神経系統(自律神経)に作用して脳の働きを活発化し、健康保持に良い効果を与える不思議な作用がある。古代ギリシアの思想家ソクラテスはよく森の木の下で瞑想にふけたといわれるが、彼のフィロソフィーは馥郁とした森のエキス、フィトンチッドのお陰で構築されたのかもしれない。

都市化の生活が進む中で、日常生活から解放されてゆったりと自然の懷に抱かれたという現代人の欲求を満たしてくれるのが森林浴である。現代は医者にかかるほどではないにしても、半病人・半健康人が増えている。お金のかからぬ森林浴によって心身のリフレッシュや快い安らぎ、解放感を味わい、蓄積性ストレスの解消を図ることができる。森林浴は現代人の命の洗濯を可能にする。自然観察にもってこいであり、新緑の季節に出かければ目の疲れをいやすというおまけ(付加価値)までつく。

### ビタミンK

最近、健康に対する人々の関心が高まるとともにビタミン類にも目が向けられるようになった。ビタミンKは血液の凝固を促す脂溶性ビタミンであり、抗出血性ビタミンともいわれる。Kは凝固を意味するKoagulationの略である。この作用を持つ物質として自然界にはK<sub>1</sub>、K<sub>2</sub>があり、合成品にはK<sub>2</sub>~K<sub>5</sub>が合成されている。ビタミンKは緑葉野菜(クロロフィル含有植物の葉)、大豆油、トマトの果実、海藻などに多く含まれ、動物では肝油、肝臓、その他の内臓、骨髄に多い。

ビタミンKはその構造式から生体内酸化還元に関与していると考えられている。人体内では腸内細菌によって合成されるので正常のヒトは特に摂取を必要としないが、ビタミンK欠乏症によって血液凝固不全や出血をきたす。この出血症は体内各組織に生ずる。新生児の出血傾向はビタミンK欠乏による場合が多く、新生児にはビタミンKを投与する必要がある。

### ラマーズ法

ラマーズ法のルーツは、'47年にソ連のウクライナでパブロフの条件反射の心理学を応用して始めら

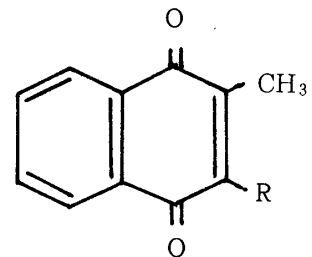


図1 ビタミンKの化学式

れた「心身療法的分娩時無痛法」にある。'51年に仏国の産科医フェルナンド・ラマーズ博士がソ連に行ってその分娩法を見学し、後に「精神予防性無痛分娩」として改良して以来、欧米に広く普及し始めた。ラマーズ法とは、座産つまり座った姿勢での自然減痛分娩の一方法であり、日本でも近年その有効性が認識されつつある。平らな分娩台に代わって、背もたれのついた椅子のような座産用の分娩台が作られ、用いられるようになった。'84年4月、三浦友和・百恵夫妻も東京赤坂の山王病院でラマーズ法によって無事男児(3,438g)を出産し、祐太郎君と名づけられたことは人々の記憶に新しい。

ラマーズ法の特徴は、麻酔をかけないで痛みを乗り越え、自分でいきんで赤ちゃんを産み、産声を自分で聞いてその瞬間を確かめようとする自力本願の出産である。ラマーズ法のポイントは、(1)お産の生理的順序を予めよく勉強し、(2)普段から陣痛がきた時の動作、こらえ方、いきみ方、胸式呼吸などをリズムをつけて練習しておくこと、(3)夫婦で講習を受け、夫もお産についての知識を持ち、補助動作のコーチ役を引き受けること。また、お産の時は分娩室で付き添って妻を力づけ、2人で協力して出産すること、(4)自力でお産を自然にやりとげるのだという自覚を持つこと——以上の4点から成り立っている。

### ダウン症

染色体異常による先天的障害であり、身体発育の遅れや知能障害などが典型的症状として現れる。1886年ダウン(J.L.H.Down)がモンゴル人と似た特異な顔つきの精神薄弱を一般の精神薄弱から区別したため、蒙古症(モンゴリズム, mongolism)といわれたこともある。症状は頭の形や特異な顔貌によって容易に診断することができる。手掌紋も単純で、手掌を横切る2本の線がみられるだけであり、猿線といわれるのも特徴の一つである。起立歩行は遅れ、歩行は3年以降に始まる。精神の発達障害は必発し、白痴や痴愚となるケースが少なくない。性格的には温和、従順で人なつこく、愛すべきおどけ者として可愛がられることが多い。一般に短命で平均生存年齢は14年である。

遺伝子が乗っている染色体は人間で46本あるが、ダウン症はトリソミーといわれる21番目の染色体異常によって生ずる。母体への放射線照射やある種のウィルス感染が誘因となって染色体異常が起こると考えられているものの、まだ結論的段階には至っていない。また、母親の年齢が高くなるにつれてダウン症児の出生頻度が高くなり、特に35歳を過ぎてからの出生に目立つことが判明している。

### ホスピス

死期の遠くない患者に延命医術を施さず、安楽に入院生活をさせる末期患者専門の医療施設である。病苦を一時的に緩和し、起床・面会も自由にし、慰安の工夫をこらした施設である。ホスピスのルーツは中世西欧の教会、修道院などで病人や巡礼者を泊めた宿泊所である。近代的なホスピス運動のきっかけは、'67年に英国のソング博士がロンドン郊外に作った「聖クリストファー・ホスピス」に始まる。日本でも'81年4月、静岡県浜松市の聖隷三方病院に第1号が開設され、愛知県内、神戸市にもスタートしている。

末期の患者には、病苦による肉体的苦痛のほか、不安・孤独などの精神的痛み、家族との人間関係、家庭の経済などの社会的痛み、死後の世界という宗教的痛みを伴う。これらに対し、医師、看護婦、宗教家、ソーシャルワーカーなどの専門家達が一体となって、チームワークのもとで患者や家族の精神的ケアを行う。ホスピスは末期患者の「死に場所」ではなく、慢性の患者も含めて「最後まで立派に生き抜くことを助ける場所」というのが運動を進めている人達の基本的考え方である。ガンが日本人の死因の1位になったこともあり、各病院でも末期医療への関心が高まりつつある。

## ブロックVIのキーワード「現代生活・時代感覚」の理解

### コピー食品

形、色、風味、舌ざわり、歯ざり、においなどを本物そっくりに作った擬似加工食品である。つまり、似せ物の原料でできた本物そっくりの食品である。'73年にタラのきざみ肉で作った「カニアシ」の商品が売り出されて以来、コピー食品は年々増加している。ニシンの卵から作った「キャビア」、タラ肉を原料とした「ホタテ」、サメやタラの卵で作った「カラスミ」、シシャモの卵から作った「カズノコ」や「明太子」などが出まわっている。「カニアシ」を本物の蟹の足の殻に詰めた手のこんだ新製品も登場した。これらはいずれも我々の食生活をバラエティー豊かに演出するものではあるが、購入の際に本物と間違えてコピー食品を買ってしまったというトラブルが起きている。上手に利用したいコピー食品ではあるが、消費者は食品を選ぶ際に表示をよく確かめてその内容を確認することが必要である。

本物そっくりのコピー食品は約100社が発売している。本物と間違えて買ったというトラブルが少なくないため、公正取引委員会も指導に乗り出し、'84年2月に魚肉や魚卵を原材料としたコピー食品の表示基準を定めた。それは、本物と紛らわしい商品名をやめることのほか、本物の絵や図案を表示しないこと、本物が含まれていることを表示する時は含有率を併記すること、形や色で本物と間違われやすい食品は本物でないことや主原料・含有率を表示すること——が要点となっている。本物のカニやイクラ、帆立貝、キャビア、カズノコなどが高価になっている折りから、カズノコ風シシャモの卵、カニ足風かまぼこ、人造イクラ、帆立貝風かまぼこなど本物そっくりだからこそ上手に利用したいコピー食品ではあるが、現代の消費者は何よりもまず表示を確認する習慣を身につけなければならない。

### 単身赴任

さまざまな事情を背負った単身赴任者が増えている。'83年の就職や離職状況を調べた労働省の雇用動向調査によると、企業内配置転換が増えて40、50歳代を中心に単身赴任者が家族持ち転勤者の2割に迫っていることが判明した。配遇者がいて、転勤の伴う配置転換者のうちで単身赴任者の占める割合は、'81年が18.9%、'82年が19.2%、'83年が19.6%と年々上昇している。年齢別では50歳代の37.3%をトップに40歳代29.7%、30歳代8.3%の順になっている。

現代の資本主義社会を生き抜く企業の論理からすれば家族連れの転勤が好ましいとしても、家庭の論理からすれば子供の教育・進学、マイホーム、老父母問題などの点から、止むなくサラリーマンは単身赴任を選択せざるを得ない。単身赴任の生活が始まると、そこには悲喜こもごもの日常性が待ち受けている。一日の勤めが終って誰もいない部屋へ帰る時、気が滅入ってしまうケースも出てくる。単身赴任者にストレスはつきものであるが、自らをコントロールして健康管理を図っていかなければならない。

単身赴任にかかわるいくつかの実態についてふれておこう。(1)企業の転勤期間は平均4.3年であり、単身赴任では3年、家族連れの場合は5年が普通である。(2)単身赴任か家族連れかを問わず、転勤者で社有の社宅・寮に入居している人は29%、うち単身赴任者寮に入っているのは6%である。単身赴任者寮の寮費は平均2,691円である。この寮は食事付きのところが多いが、寮費と食費を合わせると平均15,716円である。(3)せっかく建てたマイホームの管理をどうするかは転勤者にとって切実な問題であり、単身赴任に踏み切る動機になる。そのため転勤者の持ち家を借り上げる企業が41%、賃貸斡旋をする企業が18%ある。(4)単身赴任は経済的、精神的負担が大きく、その補償の必要性を認める企業は単身赴任(別居)手当を支給している。これは74%の会社が支給している。(5)単身赴任者はどの企

業でも増加傾向にあるが、その理由は「マイホームを放したくない」「親の面倒」「妻の仕事」などで、中でも圧倒的に多いのは「子供の教育・進学」である。こうした事情から、何らかの形で教育費補助を実施している企業は36%である。転校などに伴う費用を補助することで、企業は単身赴任をできるだけ少なくしようと図っている。

こうして社会問題化しつつある単身赴任問題に対して、同盟系のゼンセン同盟は、月額3万円の別居手当、単身赴任者用住宅の提供、月2回の往復交通費、特別休暇、留守家族の相談制度、高校転入学の簡素化などで総合的な対策を提案している。

### 高齢化社会

高齢化社会は人口の老齢化がある段階から次第に進展する状態にある社会を指し、一般的には65歳以上の総人口に占める割合で高齢化の水準が示される。高齢化社会とはその比率が8%前後に達していることを一つの目安にすることができる。産業化された国々は少産少死の人口動態を持つことが多く、このため高齢化社会は概して産業化の進んだ国々で多くみられ、北米、ヨーロッパのほかアジアでは日本がこれに該当する。日本では65歳以上人口の総人口に占める割合は'70年に7.1%、'75年に7.9%、'80年に8.9%であり、人口の将来予測によると、高齢化は一貫して進んで2000年には15%前後に達するとみられている。この15%は'80年前後の西欧諸国の人口老齢化率とはほぼ同じ水準である。しかし、日本の場合さらに老齢化が進み、2020年頃にはこれまで西欧諸国さえ未経験の約20%の水準まで老齢化が進むと予測されている。

高齢化社会の進展は、単に65歳以上人口が増加するという意味にとどまらず、生産や雇用面にも影響を与える。また、年金、医療、社会福祉などを含む社会保障面にも重大なインパクトを与える。高齢化社会に対応するための方策は経済審議会の「2000年の日本」など政府の長期展望作業の中でも検討されている。高齢化社会への対応は政策面に限らず、人々の生き方にかかわることがらであり、これからの日本の国民的課題である。

### コアラ

'80年、名古屋市は豪州シドニー市と姉妹都市提携を結んだが、'83年10月にサザerland市長は名古屋にコアラを贈ることを発表した。シドニーを州都とするニューサウスウェールズ州のタロンガ動物園からオス2匹のコアラがプレゼントされ、それが'84年10月に東山動物園にやってくるようになった。コアラはユーカリ(eucalyptus)の葉しか食べない「生きたマスコット」である。ユーカリはてんにん科の常緑樹で高さ20~30mに生長する。約550種あるユーカリのうち、コアラは40種ほど食べる。好んで食べるのは、ビミナリス、プンクタータ、テレチコルニス、カマルドレシジスなどの7~8種であるが、名古屋の平和公園に栽培中のユーカリが果たしてコアラの口に合うかどうか、そのサンプルがタロンガ動物園に空輸された。試食の結果は合格であった。

コアラは豪州特有の動物であり、「動くぬいぐるみ」として可愛がられている。コアラとは「飯まない」という意味であるが、学名をファスコラルクトス・シネレウス(Phascolarctos cinereus)という。熊とは無縁の有袋目コアラ科の動物であり、別名「フクロウグマ」ともいわれる。昼間の殆んどはユーカリの木の上でウツラウツラ寝ていて、夜になると動きまわる夜行性動物である。年齢は奥歯のすり減り具合で測定するが、寿命は15年前後である。赤ん坊は体長2cm、重さ5gで、生まれた直後に母親のおなかをよじ登って育児袋に飛び込み、袋の中で半年暮らす。カンガルー同様におなかの育児袋で育ち、その後袋から出て離乳食に移っていく。離乳食の最初は母親のフンである。コアラを捕えることは豪州では専門家の「コアラ・キャッチャー」に限られており、保護動物として大切にされている。もう一つの保護動物エリマキトカゲとともに、コアラは日本のマスコミ界のあちこちに登場した。



## エリマキトカゲ

'83年4月にTBS系CBC TVの「わくわく動物ランド」でデビューし、その後、三菱の「MIRAGE」のCMにも抜擢されたアニマル・タレントである。2本足でバタバタと逃げるキャンペーン役者のお陰で小型乗用車「三菱ミラージュ」は売れ行きを伸ばした。エリマキトカゲは学名をクラミドザウルス・キングー(=マントを着たトカゲ)という。爬虫類で、トビトカゲと同じアガマ科に属する。主に豪州北東部モンスーン地帯の荒地に生息する保護動物の珍獣である。エリマキトカゲ熱は高揚し、'84年6月には本物が日本に初上陸した。新宿の小田急デパートと伊勢丹デパート、東海地方の三重県サニーワールド長島には生きたエリマキトカゲがお目見えした。それらは、保護規定の厳しい豪州を避け、インドネシア領の西イリアンやパプア・ニューギニアで捕獲されたものである。

トカゲの変わり種であり、樹上性の敏捷な動物である。全長60~90cmで、その3分の2は尾である。首の周りがあるえり飾り風のエラは頭部の皮膚が発達したものである。普段は垂れているが、興奮するといっばいに広げ鮮やかな色彩となる。興奮時の威嚇サインとして、やにわに首の周りのマント状のヒダヒダをパッと大きく広げる。これは非常時における小動物の身体的変化としての一の示威行為である。敵に出会ってエリマキを広げて見せても相手にはかなわないとみたら、見栄も外間も一挙に捨て去り、人間のように上半身を立てて後ろ足だけでスタコラサッサと走って逃げる。相手を脅かしたかと思うと、状況不利なら俄然あたふたと全力疾走で退散する。ガニ股で走るコミカルな姿は田舎のオジさんが乗り遅れたバスを追っかける時の走り方を連想させ、このためコアラをしのぐ人気者となった。ひょうきんに疾走する後ろ姿には哀愁と孤独感さえ漂わせている。それは、負けるとわかっている勝負でも敢えてやるだけの気概を持たなくなった現代の若者、闘うことによってでなく逃走することによって自己を主張する現代の若者の姿にも似ている。

## おしん

かつては、日本の子ども達は小さい頃から労働に参加し、その中で人生や社会について学び成長した。しかし現代の子ども達は「勉強」と遊び、スポーツ以外の生活を何も知らない。こうした今日のひよわな状況に対して強烈なカウンターパンチをくらわしたのがNHKのTVドラマ「おしん」である。'83年4月にスタートした「おしん」は山形の最上川上流の寒村に生まれた女性の苦難の生涯を描いたドラマである。貧農の家に生まれたおしんは「口べらし」のため満6歳で最上川下流の中川材木店に奉行し、7~15歳まで酒田の米問屋加賀屋で働く。本当に行きたくても学校に行けなかったおしんは、その後も次々と訪れる苛酷な環境のもとで苦難に満ちた一生を送るのである。橋田寿賀子の脚本のうまさ、おしん役の小林綾子ちゃんと田中裕子の好演もあって、全国の茶の間の涙を絞り続けた。

NHK放送世論調査所が全国20歳以上の男女1500人に面接した「おしんと日本人調査」('83年10月)の結果によると、日本人の98%が「おしん」を知っていて、63%がTVを見ており、そのうち44%が涙を流したという。また、「おしん」の魅力のベスト5は、(1)困難にめげず、けなげに生きる、(2)耐えることの大切さ、(3)嫁・しゅうとめ問題、(4)小作人の貧しい生活、(5)女性が仕事を持つことの大切さ——であった。「おしん」は低成長時代の教訓ドラマでもあった。それは忘れかけていた日本人の忍耐と勤勉、貧乏、我慢強さ、粘り強さ、ひたむきな努力を我々に甦らせてくれた。「おしんになる」「おしん族」「おしん症候群」「おしんどローム」「おしんノロジー」「おしんフィーバー」「大根めし」などおしん現象をめぐる流行語さえ生まれた。日本人の多くは辛抱のシンボルとしてのおしんに「人生の教師」を重ね合わせたのだと言えよう。

## くれない族

'84年5月にはCBC TVで「くれない族の反乱」なるTVドラマが放映されたように、くれない族は、ひょうきん族と並んで今日の俗語・流行語としての若者用語である。学校や先生が教えてくれな

いから、親がやってくれないから自分はこうなってしまったのだとふてくされる若者をくれない族という。くれない族は、うまくいかなかったこと、自分のできなかったことの原因は自分の努力不足や頑張らなかつたことによるという考え方をしないで、「教えてくれなかった」教師や親の責任にする。今日の中学生、高校生にこの傾向がみられる。

思春期の第2反抗期には反抗現象が現れ、これは彼等の精神発達にとって重要なものである。第2反抗期には自発性・自主性が発達し、それを行動で示すのでまわりの者と衝突したりする。何でも反対のことを言ったり、行為で反抗したりする中で、次第に自主性が育っていく。しかしくれない族の現象は思春期にみられる第2反抗現象ではなく、むしろ反抗を示さない意志薄弱のそれに近い。「先生がちゃんと教えてくれなかったから」「お母さんがしっかりしつけてくれなかったから」と自分の行為に対する責任を他に転嫁し、いつまでも他律的に行動し幼児段階にとどまろうとする若者——彼等を名づけてくれない族という。

### ザ・ディ・アフター

'83年11月、核戦争の恐怖をまともに取り上げた米国TV映画「ザ・ディ・アフター」(その翌日)が全米で放映された。米国ABC TV制作(監督ニコラス・メイヤー)によるこの映画は核爆発の恐ろしさを描いたTV映画であり、全米人を震撼させた。視聴率はニールセンの調査では40%、ABC TVの抽出調査では52.2%であった。これは約1億人の米国人が見るという空前の反響である。

小麦、牧草の市場として知られる米国中西部の中都市カンザスシティが映画の舞台である。娘の結婚を控えたオックス氏はベテランの医師で、どこにでもある平和な家庭生活を送っていた。しかし、その頃西欧では毎日に核戦争の危機が迫りつつあった。少数の狂った人間達によって米ソの核戦争突入が迫ってくる。ついに、カンザスシティに配備されたミサイル基地へ向けてソ連の核ミサイルが発射される。核弾頭の閃光がひらめいた一瞬、町は生地獄の絵図となる。逃げ惑う市民によって町はパニックに陥る。人間はみるみる骸骨となり蒸気と化していく。核爆発によって生じる電磁波作用でコンピュータによる機械文明がその機能を停止する電磁波現象が起こる。生物も消滅してしまう。

その翌日、かろうじて生き延びた人々を待つものは恐怖と死だけである。若い娘が放射能にむしばまれていく残酷さ、主人公の無残な最期は無気味かつ壮絶である。これは、いつ起こるかもしれぬ核戦争の恐怖、局地戦争が全面核戦争につながる危険性をリアルに描いた異色のSF映画である。英国でも民間TVを通じて放映され、世界唯一の被爆国日本でも'84年1月に放映された。欧州中距離核戦力(INF)削減交渉の行き詰まりと世界的な反核運動の高まりの中で、ザ・ディ・アフターはボタン操作による核戦争の恐怖を人々に訴えた。はたして人類は21世紀の平和な宇宙時代を築くことが可能だろうか。映画が最後の字幕で伝える言葉を記しておこう。「この映画は核戦争の最低の規模を描いたものに過ぎない。」

## ブロックVIIのキーワード「スポーツ・教育問題」の理解

### サラエボ

雪と氷の祭典、第14回オリンピック冬期競技大会(Olympic Winter Games)は、'84年2月、ユーゴスラビアの古都サラエボで12日間にわたって繰り広げられた。社会主義国での冬期オリンピックの開催は初めてである。

49カ国から参加した1,510人の選手達は、サラエボ大会のマスコットである狼の「ブチコ」が応援する中で6つの競技を競った。6競技とは、スキー、スケート(スピード、フィギュア、アイス・ダンス)、アイスホッ



図2 サラエボ大会のマスコット狼の「ブチコ」

ケー、パイアスロン、ボブスレー、リュージュである。結果は1位東独、2位ソ連、3位米国であった。期待されていた500 m、1,000 mのスピードスケート選手黒岩彰は本来の実力を発揮できなかったが、北沢欣浩選手がスピードスケート男子500 mで38秒30の記録で2位となり、日本スケート界初の銀メダルを獲得した。日本勢にとって、この1個のメダルは貴重であった。

東独の女子スピードスケートの強さはひとときわであり、4種目で9個のメダルを奪った。東独は競技全体で金メダル9、銀メダル9、銅メダル6と圧倒的な強さで世界のトップに躍り出た。東独旋風の吹き荒れたサラエボ大会ではあるが、最終日の男子回転では双子のメーア兄弟(米国)が金銀メダルを獲得したことも目立っている。次回は'88年にカナダのカルガリで開催される。カルガリはアルバータ州第2の都市でロッキー山脈の東側にあり、カウボーイの町の面影を今なお残している。冬季オリンピックへの人々の目はサラエボからカルガリへと移った。

### レスポ

'84年4月、愛知県蒲郡市を主会場として、三河地方で世界の身障者が集う第1回国際障害者レジャー・レクリエーション・スポーツ大会(略称レスポ'84)が2日間にわたって行われた。蒲郡市民体育館でのレスポの開会式は名古屋女子大学高校マーチングバンドの躍動感あふれる演奏・演技によってスタートした。海外から22カ国、2地域(香港、マカオ)の153人を含め1,600人余の参加者は各会場で潮干狩り、三河湾周遊、ボウリングなどのレクリエーション種目に出場して国際交流を深めた。車椅子を使つての海外からの出場者もいた。硬式テニス、バドミントン、卓球、ヨットなどのスポーツもあり、ユニークなものにはレジャーとしてカラオケを楽しんだ参加者もいる。

この大会は、世界各国の身障者がふれ合いを通じて友情を深め、社会参加を旨とするから発足した。障害者がスポーツ、レジャーなどに参加することを通じて交流を図り、自立への道を切り拓こうとする趣旨から生まれた。今大会を下から支えたのは地元のボランティア達80団体、約3,200人の人々である。健常者と内じようにスポーツを楽しむことができない重度身障者のための新しいスポーツの開発、障害者を受け入れる開かれた社会の確立など今後に残されたいくつかの課題はあるものの、これを機会に我が国の障害者もまず積極的に戸外に生ることが望まれる。

### 習熟度別指導

低学力や問題行動は今日の教育現場がかかえる共通の悩みである。そこから「落ちこぼれ」対策として浮上したのが習熟度別指導の導入である。習熟度とは学習の到達度のこと、一定時点でその生徒が身につけている学力を意味する。習熟度別指導は完全習得学習(mastery learning)と密接不可分である。高校では'78年の新学習指導要領に「各教科・科目の指導に当たっては、生徒の学習内容の習熟の程度などに応じて弾力的に学級の編成を工夫するなど適切な配慮をすること」との規定が加わって以来、習熟度別指導が普及し、'82年12月現在の文部省調査では42%の公立全日制高校が習熟度別学級編成を行っている。教科としては数学と英語が最も多い。さらに、'83年11月の中教審報告では、中学校においても教科によっては生徒の学習内容の習熟度に応じた学習指導の多様な工夫のあり方を提言している。

習熟度に応じた指導は学習指導の基本であり、生徒一人ひとりの個性に応じた個別化・個性化教育への関心が深まる今日では、原理的には誰もが認める指導方法である。義務教育としての中学校の習熟度別指導について考えてみよう。指導形態としては、学級を解体し学年を対象に習熟度別学習集団の形態をとる方法と学級内における習熟度別指導とがある。低レベルのクラスに組み分けられる生徒とその父母に劣等感・差別感を生じさせてしまう日本の教育風土においては、前者の習熟度学級編成には慎重にならざるを得ない。後者の場合は一斉指導を前提に個人差に応じた学習指導がとられる。形成的評価を生かし、授業過程に個別化による指導を導入する方法である。一斉指導から出発して、

途中のチェックテストによって生徒が理解できたかどうか診断し、習熟度別に編成したコース別班学習を行う。この場合は、一般に基礎学力の回復コースと学力の発展性を期待した深化拡充コースないし生徒の興味関心を軸に内容を選択させるコースなどに分けられる。チェックテストによって判明した学習遅進者は教師に詳しく教えて貰い、再度チェックテストを受ける。目標とされる基礎学力が全員理解できるように教師は指導をくり返すのである。習熟度別指導が一過性の教育運動に終らないためには、授業形態、班別コース設定、学習内容と進度調整の関連、教材開発、校内指導体制など多くの課題が山積している。問題の根本は生徒の「知的興奮」と「やる気」をどのように引き出すかの教師の手だてにかかっている。

### 生徒心得

TV画面でロサンゼルス・オリンピックの開会入場式を見ていると、140カ国の参加国のうち最も整然と行進したのは日本の選手達である。「かしら右」の合図のもと一糸乱れず顔を右へ向けた光景は、精巧なコンピュータ制御ロボットの群れさえ連想させた。日本人は画一的にキチンとすることを美学とする国民性があるようだ。学校教育においても管理教育が論議されるようになって久しい。学校は本来的に子ども達を一つの標準に囲い込み、画一化していく構造を内包する。しかし今日の学校はそれが一層進み、詳細な校則や服装・頭髪などの生活点検がなされている。中学生に手渡される生徒手帳の中にも生徒心得の項目に盛り込まれる内容が豊富化・細密化している。生徒心得は、学校生活のみならず通学や家庭生活上の規定にまで及び、内容は多岐にわたっている。通学時の心得としては、始業10分前迄の登校、挨拶の励行、右側通行、3人以上の並列の禁止、道路横断時の注意、車中など公の場所での礼儀、店内のぶらつき禁止、食べ物を口にしながらの歩行禁止などが主な内容である。学校での心得としては、始業前、授業中、休み時間、清掃、服装、髪型、持ち物などにわたって規定がなされている。家庭での心得としては、計画的な生活の励行、挨拶、寝具の始末、部屋の整頓、予習復習、不得意科目の重点的勉強、明日の準備、家の手伝い、兄弟姉妹仲よくすること、夜間外出を控えること、映画は親や学校の許可するものを見ること、TV番組の計画的な選択視聴、節約、生徒にふさわしくない場所への出入り禁止などもっともなことではあるが、細かい点まで規定がなされている。

これらはいくまで心得であるから生徒は心がけに努めればいいのかもかもしれないが、一挙手一投足に至る規定の感が強い。現代の中学生は自分を自分で律することができないほど「ひよわ」になってしまったのか。あるいは、こうした生徒心得を強化することによって、かろうじて非行や暴力などの問題行動が防止されているのだろうか。いずれにせよ管理教育又は管理の徹底化によっては、教育は明るい未来を創出しないだろう。生徒の自主性が不在するところに教育は成り立ち得ないからである。

### 箱庭療法

箱庭療法のルーツは、'29年にローエンフェルト (Lowenfeld, M.) が発表した世界技法 (world technique) である。これは子どものための心理療法的手段として考案された技法である。内法 57×72×7 cm の底を青色に塗った箱に湿った砂を入れ、子どもにいろいろな玩具を配置して「箱庭」を作らせる。ミニチュアの動物、人形、家、車、花などを使って、クライアント (受療者) に自由にその子どもの内面的世界を表現させる。箱庭療法はセラピスト (治療者) との人間関係を基盤にして、クライアントに自己の内的世界を再統合させる技法である。

スイスのユング派の心理療法家が活用する治療技法として、日本にも'65年に紹介され、緘黙児や登校拒否児など情緒障害児の治療に用いられている。箱庭療法の特徴としては砂 (sand) を使うことがあげられる。子どもが砂に触れることは、治療に必要な適度の退行現象と無意識の世界を喚起することに役立つからである。

## 登校拒否

心理学的に定義すれば、登校拒否は情動面の未成熟や情動的な葛藤に基づいて起こる常習的な異常行動である。一見些細な理由づけで登校を拒否し、不登校が次第に慢性化していく場合が多い。朝の登校時間になるとぐずり出し、頭痛、腹痛、吐き気などの身体的症状を訴えて、子どもはなだめてもすかしても登校しなくなる。この状態はいろいろな程度のものが園児から学生にまでみられ、今日では登校拒否の傾向を持つ子ども達は少なくない。以前は学校恐怖症 (school phobia) という用語が用いられたが、これは学校が恐怖の対象だと解されたからである。しかしその本質は恐怖症ではなく、家庭における親子関係とりわけ母子関係に帰因すると解されるようになった。ジョンソン (A.M. Johnson) によれば、登校拒否は母と子が互いに依存し合って別れられない状態のことであり、アイゼンバーグ (L. Eisenberg) によれば、母が子に向かって学校というのはひどいところだから行かないほうがいいよという暗黙のメッセージを送っているのだという。また、クーリッジ (J.C. Coolidge) によれば、登校拒否児の母は身体的な世話をよくするが子の心理的独立を非常に恐れ、子を自分のところに引きつけておこうとして登校拒否の状態が生ずるのだという。

こうしてさまざまな原因を指摘することは可能であるが、家族内の問題 (家庭教育のまずさ、父親の権威失墜など) が背景になっている場合が多い。一方で、単なる一時的なズル休みや怠慢による登校拒否、最近の価値観の多様化によって登校すること、勉強することの意義喪失の結果としての登校拒否もあって、その治療には単純なものから奥行の深いものまである。親に対するカウンセリングを通じて、子どもに学校のつらさに耐える気力を培わせ、まともな自主性を促進することが問題解決の鍵となる。

### 戸塚ヨットスクール

愛知県知多郡美浜町の「戸塚ヨットスクール株式会社」は、'78年の設立以来、家庭内暴力や登校拒否を繰り返す情緒障害者に極端なスパルタ教育を行ってきたが、現在は一時閉鎖中である。戸塚ヨットスクール事件を捜査していた愛知県警によって、'83年6月、戸塚宏校長 (42歳) とコーチ2人が逮捕されたからである。この逮捕は前年の12月、訓練中に外傷性ショックで死亡した入校8日目の中1男子生徒に対する傷害致死容疑であった。入校案内によれば、入校金50万円、参加費1日1万円、他にウェットスーツ代など含めて合計約100万円の費用が必要である。スクールは「強い子をつくる」ことを基本目標にした「人間教育の場」とされているが、実際には子どもの非行や暴力、情緒障害のため途方にくれた家族が子どもを入校させるケースが大部分であった。強い者だけが生き残るというスパルタ教育が売り物だけに、コーチが竹刀や角材で訓練生を「しごく」のは日常茶飯事であり、態度が悪かったり体操やヨット操作がまずい時は容赦なくぶちのめしたり、海中へ投入するなどの体罰が加えられた。訓練の厳しさに耐えかねて逃亡した生徒もいる。

ヨットマンの戸塚校長は、情緒障害を治すには、甘えを認めず厳しいヨット訓練によって精神力を鍛えることが必要だと彼の教育論を強調したが、社会的に認められる訓練の範囲を越えたスクールのしごきと体罰は、いじめの極限的典例であった。戸塚校長やコーチらは現在起訴され公判中であるが、いずれにせよ合計3人の死者の命は甦えられない。スパルタ教育はよいものだという考えが日本には強く残っており、それが体罰やしごきを生む一因にもなっている。戸塚ヨットスクールは、子どもの問題を自分の愛情で解決しようとせず、何でも学校に頼ろうとする現代的風潮に一つの反省を促している。

### ねむの木学園

ねむの木学園は東京生まれの女優宮城まり子が'68年に設立した児童福祉施設である。所在地は静岡県小笠郡浜岡町にある。社会福祉法人の理事長として名誉職的に名を連ね、実務・実践はその道の専

門家に任せるというのでなく、彼女は施設長として福祉の現場の責任者となった。ダメな子なんて一人もいないとの信念のもとに、ハンディキャップをもつ子ども達に対するほんもの教育の闘いが始まった。彼女は当初、家庭に恵まれなくてしかも身体機能に障害をもつ子ども達という二重ハンディキャップをもつ子どものための学園を目ざしていた。しかし、児童福祉法の規定によれば、養護施設は「乳児を除いて、保護者のない児童、虐待されている児童その他環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護することを目的とする」施設である。一方、肢体不自由児施設は「上肢、下肢又は体幹の機能の障害のある児童を治療するとともに、独立自活に必要な知識技能を与えることを目的とする」施設である。彼女の期待する学園はむしろ肢体不自由児施設が適切であったが、省令児童福祉施設最低基準の規定によると、肢体不自由児施設は「医療法に基づく病院」でもなければならぬ。これは不可能のため、養護施設として認可され発足することになった。以来、子ども達の療育指導と施設運営について苦勞とつまずきの毎日が重ねられてきた。'79年5月の省令改正により「肢体不自由児療護施設」という新型の施設形態が制度上公認され、ねむの木学園も病院ではなくても肢体不自由児施設として法的に認定され、やっと当初の念願がかなえられた。

'79年の春は、憲法上義務教育といわれながら、従来は事実上緩められていた障害をもつ子ども達への養護教育の義務制がスタートした年でもある。ねむの木学園はそれまで教育委員会から養護教諭の派遣を受け、施設内で養護学級を設けていた。養護教育の義務制実施を契機に、宮城まり子はわが国初めての私立養護学校の開設に踏み切った。彼女は、オープンシステムの養護学校として新生させたねむの木学園において、福祉と教育の一体化を図る闘いにチャレンジしている。

## ブロックⅧのキーワード「TVに登場した7人の人物」の理解

### サリー・ライド

「気分はディズニーランドのEチケットよ」——ディズニーランドの全ての乗り物に乗れる特別券にうまくたとえて宇宙飛行の素晴らしさを表現したこの台詞は、米国初の女性宇宙飛行士サリー・ライドさんがスペースシャトルのチャレンジャー号から地球に交信した第一声である。'83年6月、ライドさんら5人の宇宙飛行士を乗せたチャレンジャー号はケネディ宇宙センターから打ち上げられ、7日後にエドワード空軍基地に無事帰還した。米国が宇宙の定期便として開発したスペースシャトルは実用期を迎えつつあり、今回打ち上げのチャレンジャー号は、荷物室に積んである人工衛星を遠隔操作で宇宙に放ちこれを回収する作業に成功した。



映像1 サリー・ライド

ライドさんはX線天文学の専門家として宇宙を飛んだスターウォーズ時代のニューヒロインである。彼女は'51年にカリフォルニア州ロサンゼルスで生まれ、スタンフォード大にて英語学、物理学を学んでいる。最近結婚した夫のホーレイ氏も宇宙飛行士である。彼女は物理学、文学の博士号を持つばかりでなく、テニスの腕もプロのキング夫人から折り紙をつけられたほどのスーパー・レディである。一方、ソ連の女性宇宙飛行士には'63年に一人乗り宇宙船ウォストーク号に乗ったワレンチナ・テレシコワさん、'82年打ち上げのソユーズT7号に乗り組んだ奥様パイロットのスペトラーナ・サビツカヤさん（「ヤー・チャイカ」＝「私はカモメ」の台詞が有名）がいる。ライドさんは、ソ連より20年遅れて世界で3番目の女性宇宙飛行の経験者ということになる。NASA（米航空宇宙局）には現在8名の女性宇宙飛行士（32～40歳）が採用され、無重力状態や大気圏突入などの苛酷な訓練に耐えている。宇宙では男女の差はないのだとNASAではすでに結論を下し、女性宇宙飛行士が米国の宇宙計画の中ではたす役割は小さくない。'84年に飛行予定のディスカバリー号では米国2人目の女性宇宙飛

行士レズニッツさんが誕生する。フェミニストの国にふさわしく、シャトル内にはトイレ、洗面所、寝袋だけでなく女性用化粧品セット（口紅、マスカラ、アイシャドーなど）が備えられている。

### 木下 恵介

'83年12月、NHK総合TVでは、この人・木下恵介ショー「わが夢永遠にうるわし、映画を歩んだ幾歳月」が放映された。古稀を迎えた木下監督の故郷は静岡県浜松市である。'12年に生まれ、商家の10人兄弟姉妹の5人目として厳しく育てられたという。母親たまさんはよく働く人間で、彼はよく働くのが当たり前の環境で育った。だから、木下監督は今でも馬鹿とのろまは大嫌いだという。



映像2 木下 恵介

浜松工業学校を卒業後上京し、'33年松竹蒲田撮影所にカメラマンとして入社したのは19歳の時である。ちょうどこの年、7歳の高峰秀子が子役として初めて映画に登場した「頬を寄すれば」が制作され、彼もカメラ助手としてかかわっている。現像や撮影助手の仕事を経験したのち助監督に転じ、処女作「花咲く港」でデビューした。以来、映画人として手がけた作品は47本にのぼる。そのうち名コンビの高峰秀子との作品は半数以上を数えている。彼は女性映画の名監督である。叙情的な世界の映像描写に傑出し、「野菊の如き君なりき」「喜びも悲しみも幾歳月」「父よ母よ」はその代表作である。とりわけ'54年制作の静かなる反戦映画「二十四の瞳」（原作壺井栄）を人々は決して忘れ去ることができない。昭和初期の春、小豆島の岬の分校に赴任した大石先生（高峰秀子）とソンキ、キッチン、ミサちゃん、マアちゃんら12人の教え子との戦後に至るまでの心温まる愛の交流を詩情豊かな瀬戸内海の風物の中で描いた反戦映画である。教え子達が受けたさまざまな戦争の傷あとを通して戦争のむごたらしさ、戦争の非人間的本質を静かなタッチで訴えている。これは、戦時中に母を失ったが故に戦争を憎む木下監督の母に対する鎮魂の映画でもある。

彼は近代的な風刺の精神も横溢し、'49年作の「破れ大鼓」や'51年作の「カルメン故郷に帰る」（日本最初のカラー作品）がある。彼は社会的視野から日本の現実とそこから起こる悲劇や「家」を見つめてきた。人間の善意と人間性の讃歌を基調とする彼の作品は戦後日本映画の強力な推進力となった。時代を先取りする企画力と独創性に富んだ映像の天才、木下監督は、日本映画に自然主義的作風の一つの峰を築いた。自分が生きてきた証しとして、彼はフィルムに愛を刻み続けたのである。

### 小林 秀雄

'83年は近代評論文学の開拓者小林秀雄の他界が大きなトピックの一つとして報道された。「批評の神様」又は「言葉の魔術師」ともいわれた彼は、'02（明治35）年東京に生まれ、一高を経て'28年東大仏文科を卒業した。青年期にボードレール、ランボー、バレリーの文学を経験したことが、その後の彼の批評的気質を生成する土壌となった。



映像3 小林 秀雄

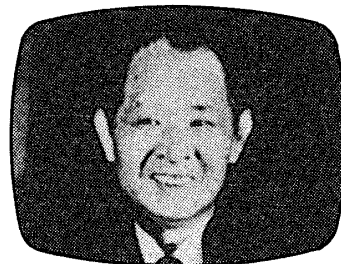
「様々なる意匠」から始まって、「ドストエフスキイの生活」「無常といふ事」「モーツァルト」「ゴッホの手紙」「考えるヒント」「本居宣長」などに至る数々の作品は常に文壇に刺激と影響を与え続けた。彼は文芸評論家として出発したが、芸術・思想・社会・歴史と広範囲にわたる分野で文明批評を続け、批評を対象から独立した「文学」にまで高めた。晩年の大著「本居宣長」（'77年）は文芸批評という枠さえ越えた人間論・文化論の幅を持っている。彼は、「禽獣よりもことわざしげく」、「物のあはれをしる」人間は、遠い昔からただ生きているのに甘んずる事が出来ず、生死を観ずる道に踏み込んでいた——と宣長を読み解きしている。

批評とは一体何か。「考えるヒント」の中から彼の批評精神のいくつかをここにピックアップしてお

こう。1) 自分の仕事の具体例を顧みると、批評文としてよく書かれているものは、皆他人への讃辞であって、他人への悪口で文を成したものはない事に、はっきりと気付く。……批評とは人をほめる特殊の技術だ。2) 人間理性の在るがままの形をつかむには、独断的態度はもちろん懐疑的態度もすてなければならない、すててみれば、そこにおのずから批評的態度と呼ぶべきものが現れる。3) ある対象を批判するとは、それを正しく評価することであり、正しく評価するとは、その在るがままの性質を、積極的に肯定することであり、そのためには、対象の他のものとは違う特質を明瞭化しなければならず、また、そのためには、分析あるいは限定という手段は必至のものだ。

#### 胡 耀 邦

'83年11月に来日した中国共産党総書記の胡耀邦(68歳)は、10億818万人の巨大人口をかかえる中国最高指導者の一人である。160cmに満たない小柄な体ではあるが、毎日1万歩を歩くのを日課にして、心身ともに鍛え抜いた筋金入りの政治家である。彼は'15年に湖南省の貧農の家庭に生まれ、18歳で共産党員となった。紅軍の少年兵として故毛沢東の長征にも参加した闘士である。中華人民共和国の誕生('49年)以降、新民主主義青年団中央委員、共産主義青年団



映像4 胡 耀 邦

第一書記、第八期党中央委員、全国人民代表大会常務委員会委員、党中央西北局第三書記兼陝西省党委員会第一書記などに選任されてきたが、文化大革命では劉少奇直系の「反革命修正主義分子」として退けられた。その後、'72年に全国人民代表大会常務委員会委員として復活したが、'76年に「四人組」の攻撃を受けて鄧小平とともに再度失脚した。しかし翌年には再々度復活し、'80年には党政治局常務委員に選出された。その後中央書記処が復活すると、その総書記に就任し現在に至っている。

彼は鄧小平をヘッドにいただく中国政治の方向性に協調して、4つの近代化(modernization)つまり農業・工業・国防・科学技術の近代化と経済調整に力を注いでいる。鄧小平、胡耀邦の政治の方向は、イデオロギー的には左をめざし、農業政策では右をめざす点に特徴がある。今回の胡耀邦総書記の訪日は、ブルジョア的精神汚染(資本主義のブルジョア的思想によって精神が汚染すること)を警戒しつつも、開放経済体制をとることによって資本主義の果実を中国に取り入れようとする意図のあらわれでもあった。

#### 斉 藤 喜 博

'84年6月のNHK教育TV「教育セミナー・教育を考える」では、「時代の中の教師像」第2回目として「授業を創る・斉藤喜博」が放映された。彼は39年間に及ぶ小・中学校の教員生活を退職後も、宮城教育大教授や「教授学研究会」の世話人をつとめるなどして教授学研究会に従事してきたが、'81年に70歳で他界した。彼は日本有数の教育実践家であり教授学研究者であった。



映像5 斉 藤 喜 博

斉藤氏は'11(明治44)年に群馬県佐波郡に生まれ、'30年に群馬師範を卒業後は小学校の教員生活に入った。大正期の自由主義教育運動家、木下竹次の「合科学習」に影響を受け、同時に'32年から入会したアララギ派の歌人としての美意識を磨くことによって、彼は独自の教育論を育んでいった。戦後は'47年の六三制発足とともに新制中学の教師となり、その後、群馬県教職員組合文化部長を経て、'52年に群馬県佐伯郡島村島小学校校長となった。当時の島小は本校と分校に分かれ、364名の児童と14名の教職員という小規模学校であった。斉藤校長は形式主義、概念主義の教育を打破して、新しい授業づくり、学校づくりを推し進めた。小さくて不便だとする島小の消極的雰囲気を取り払うために、職員室では車座になって会議を開いたり、「介入授業」と称して一人ひ



とりの教師の授業を見てまわったりした。成績表や教壇、校長室をなくすことも試みた。

彼によれば、教師は授業をつくる職人であり、子どもをつくる作家でなければならない。教師は職人、専門家としての自覚を持つべきだとの信念から、校長でありながらも自ら踏み箱指導や合唱指導にもタッチした。彼の「ゆさぶり」授業によって、子ども達は魔法にかかったように踏み箱や合唱がうまくなった。'55年以降は毎年公開授業を開催し、これには全国からの多数の参観者が参加した。島小の教育実践の成果は「未来につながる学力」「学校づくりの記」「授業入門」「私の教師論」「教育の演出」などの著作にまとめられ、記録映画「芽をふく子ども」にも収められている。教師にとって最も中心的な仕事である「授業」のあり方を厳しく実践的に追究したこれらの成果は、'60年代の日本の民間教育運動の動向にも強力なインパクトを与えた。「20坪教室派」として批難された彼ではあるが、一人ひとりの子どもの側から授業をとらえ育てていくことの大切さ、教室の仕事を通して創造的教育づくりをすることの大切さを訴えた彼の教育論は、'80年代の今日においてもその光を失うことはない。

### 高見山大五郎

「チャンコがおいしいと思うまでには2年かかった。稽古はつらかったが、相撲が好きだった。記録より20年間相撲を取ったことが最高の誇りです」——これは、'84年5月の大相撲夏場所千秋楽で玉竜戦を終えた高見山が汗をふきふき行った記者会見での引退の弁である。すでに9日目までの8連敗で負け越しが決まり、彼は引退を決意していたが、最後の場所として千秋楽まで取ることを親方に申し入れていたのである。現役最後の土俵も相手力士の玉竜が同情やご祝儀から負けてやらなかったのがよかった。最後の一番を白星で飾ることはできず、192 kgの巨体が土俵にはった。20年に及ぶ力士生活に終止符が打たれ、大相撲のスーパースター高見山は39歳でついに燃え尽きた。



映像6 高見山 大五郎

高見山(ジェシー・ジェームズ・ワラニ・クハウルア)はハワイ・マウイ島で'44年に生まれ、すでに13歳の時、身長182 cm、体重117 kgあった。高校時代はアメリカン・フットボールで鍛え、この時“fight to the last”(最後まで頑張る)のフットボール精神が培われている。'64年に初めて日本の土を踏み、ハワイからたった1人で相撲界に飛び込んだ。高砂部屋で19歳のジェシーを待っていたのは稽古の基本の「股割り」であるが、モットーの「一に辛抱、二に努力」を重ねて'67年に新十両となる。'68年初場所には念願の入幕を果たし、幕内在位97場所の中では金星獲得12個、殊勲賞6回、敢闘賞5回、そして'72年の名古屋場所には平幕で初優勝の経験を持つ。通算出場1654回、最高位は関脇である。日本女性を妻とし、'80年には日本に正式帰化して本名も渡辺大五郎と名乗ることになった。

「日本に来て、ただ前に行くことだけを考えていた」高見山であるが、その足が前になくなり始めた。痛めた左ヒジの故障が回復せず、西十両12枚目まで陥落してしまった。しかし、巨体に似合わず土俵にちょっぴりしか塩をまかないユーモラスな高見山は、日本の相撲を面白く楽しいものにしてくれた。勝っても負けても絵になる土俵姿を人々はもう見ることはできない。引退後は年寄「東関」を襲名して、若手力士の指導に当たっている。'82年にハワイから連れ帰った小錦には何くれと世話を焼き、アドバイスを送っている。東関親方の相撲信条は“go for broke!”(当たって砕けろ)である。

### レスター・C・サロー

'82年夏に東京で開催された国際経済経営会議(The 1982 International Conference on Economics and Management)の最終日、総合要約講演の壇上に立ったのは、米国の経済学者レスター・C・サローである。氏は'38年モンタナ州で生まれ、ハーバード大で博士号を取得して、'68年以来マサチューセツ

ツ工科大 (MIT) の経済学教授である。サミュエルソン教授に代わって「ニューズウィーク」誌の経済コラムを担当している。

サロー氏はベストセラーの啓蒙書「ゼロサム社会」と専門書「デジャラス・カレンツ」の著者として日本にも知られている。前著では、ゼロ成長に陥った米国の経済社会、産業界全体の生産性がストップした米国社会について分析し、現代社会では政府が何事かをなすには必ずスケープ・ゴートが必要になったとして、現代社会に



映像7 レスターC.サロー

における利害対立の鮮明化を指摘した。後著では米国の経済学で現在動いている主要な流れについて分析している。米国の主流経済学として50年にわたり支配の座にあったのはケインズのマクロ経済学であるが、彼によれば、'80年代に入って「反ケインズ」の旗をかかげるマネタリスト、サプライ・サイダー、合理的期待仮説学派などの価格競争売買モデルを優位とする新古典経済学が経済政策の指導理論として抬頭したというのである。マネタリズム (Monetarism) は貨幣政策の重要性を主張する立場、サプライサイド経済 (supply-side economics) は資源を公共部門から民間部門へ、消費財から資本財へ向けることにより、生産力の増強と物価水準の安定を意図した経済政策上の立場である。合理的期待仮説 (rational expectation hypothesis) は人々が利用可能なあらゆる情報を利用して合理的な予想を行おうとする限り、その平均値については正しい予想を下すことができるという立場である。これら価格競争売買の経済理論が数量化分析できる利点を持つことを認めるものの、著書は経済学の支配的な方式として登場した「反ケインズ派」の価格競争売買モデルを無効かつ非現実的であると体系的に論破している。サロー氏は米国経済学界のリベラル派の代表であり、ケインズ経済政策の立場に立っている。'84年の大統領選に向けて、民主党の新経済路線をプランニングした。彼は大胆な発想を打ち出し、齒に衣を着せず真正面からはっきり物を言う学者として注目されている。

## おわりに

本稿では「Key Words Picture II」の後半部分、つまりブロックV~VIIIまでの31のキーワードについて、そのルーツと背景を文章化してきた。別稿(その6)のブロックI~IVまでと合わせて合計60のキーワードは、いずれもブラウン管に登場したTV「情報」「映像」とかわりを持つものであり、現代社会と何らかの緊張関係を保持するものばかりである。激しく進行する現代社会に対応するためには、本当に価値のある情報が何であるかを見きわめることが大切であり、それよりもさらに重要なことは量的に増大し氾濫する情報の中で、どんな情報を捨てたらいいかという点である。現代人に必要な能力としての情報選択能力とは、無駄で不必要な多くの情報をどれだけ切り捨てられるかという非生産的情報を捨てる能力のことでもある。現代人は誰もがこのことを痛感しているに違いない。

情報を取捨選択し、適切に分析しうる総合的な視野を培っていく一つの方法として、筆者は1年間を単位とする新聞掲載のTV番組表を追跡してきた。TV番組表に出現する頻度と複数のTV局の番組表にまたがって出現したかどうかの2点にポイントをおきながら現代社会のためのキーワードをピックアップしたことには限界があるものの、取り上げられた合計60のキーワードは日本のTV局(NHK, NTV, TBS, FUJI, TV朝日, TV東京の6大TVネットワーク)から放送された番組の内容を凝縮させたエッセンシャルズであることには違いない。TV番組表に表現される一つ一つの番組のタイトル、サブタイトルは各々の番組の内容を象徴するものである。NHK, 民間のいずれを問わず、一つの番組が放送されるためには相当の時間と費用と人的エネルギーが費されるのであり、一方我々視聴者が新聞のTV番組

表を見てその番組を見る・見ないを選択するのであってみれば、番組の制作・放送の側もTV番組のタイトルにはかなりの神経を使っていることが予測できる。TV番組表に示されるタイトルは各々の番組紹介のためのキャッチフレーズないし宣伝としての意味を持っているからでもある。こうした性格を持つTV番組表を1年間追跡した結果として選出されたのが60のキーワードである。

ここでもう一つの点についてふれておかねばならない。それは、我々がTVから受け取る情報は「映像」情報だという点である。文字・活字と比較して、映像は我々の感覚に直接アピールする何かを持っている。映像は我々視聴者の目を楽しませてくれると同時に、一つのカメラアングルからとらえた映像をブラウン管に提示してくる。別のカメラアングル、別の観点から眺めた場面・状況設定もありうることを我々は常に承知していなければならない。しかしまた、TV映像は言語による学習とは違って身体感覚を通じた直接体験に近いものを提示してくれる。つまり直接体験そのものではないにしても、TVは擬似的な間接体験を与え我々に臨場感を喚起させてくれる。TV映像はビジュアル・イメージの想起を促してくれるのである。現代人にとってTVが楽しいのは、TVがこうした不思議な魔力を持っているからである。誰も見ないTV番組というものは、誰も生徒のいない教室で授業する教師と同じであり、番組としての意味を持たない。とすれば映像という大きな武器を生かして、TVはこれからもさまざまな工夫をこらした番組を現代人に提供することが必要である。楽しさとTVとは切り離せない関係にあるにしても、一生懸命制作された誠実な番組が視聴者の目を引きつけるのも確かである。TVの持つ映像の魅力を生かして、楽しさばかりでなく刺激的な思考の展開や知識を蓄積する喜びがTVに一層加えられるとしたら、TVは現代人にとって名実ともに必要なメディアとなるであろう。

最後に、TVの持つ機能についてまとめ、本稿を閉じることにしたい。大別してTVには3つの機能がある。第一は文化としてのTVであり、第二にはジャーナリズムとしてのTVであり、第三は娯楽としてのTVである。娯楽としての第三の機能は説明するまでもないので、第一と第二の機能について述べておこう。文化としてのTVの機能とは、TVが人々の教育・教養に役立つことであり、生涯教育のための道具となっている点である。TVは文化の伝達と創造に貢献している。ただし、マスメディアというTVの持つ性質上、その文化は専門文化よりはむしろ大衆文化である。TVは一般市民、フツウの人々の文化のレベルを全体としてアップさせる機能を持っている。ジャーナリズムとしてのTVの機能とは、TVが即時的な情報伝達媒体であることを意味する。TVはさまざまな生の情報を映像が加味された情報に加工して我々に伝えてくれる。その情報はある側面からの事実であって真実そのものとはいえないが、これほど多くの情報を多くの人々に伝えてくれるメディアはTV以外にはない。刻々と変化する時代や状況に対応する現代人の能力は、ジャーナリズムとしてのTVが提供する情報を栄養源として培っていくことができよう。

## 参 考 文 献

別稿(その6)に示した1)~26)の参考文献のほか、下記の文献を参考とした。

- 27) 野間惟道編集：医学大辞典 ENCYCLOPEDIA OF MEDICAL SCIENCES, 37, 講談社(1983)
- 28) 南山堂医学大辞典第16版 NANZANDO'S MEDICAL DICTIONARY, 南山堂(1978)
- 29) 山田常雄他編集：岩波生物学辞典第2版, 岩波書店(1977)

- 30) 三森孔子：すてきなラマーズ法お産，文化出版局 (1983)
- 31) 雨森良彦：妊娠・お産百科，婦人生活社 (1984)
- 32) 加藤正明他編著：精神医学辞典，弘文堂 (1980)
- 33) 日本小児保健協会監修：小児の保健と教育の事典，同文書院 (1980)
- 34) 朝日新聞社編：新聞のことば事典 1982，朝日新聞社 (1981)
- 35) 朝日新聞西部本社社会部編：単身赴任，朝日新聞社 (1984)
- 36) 塚本洋太郎：原色花卉図鑑下 (改訂版)，保育社 (1975)
- 37) 中日新聞 4月21日号 (1984)
- 38) 新教育の事典，平凡社 (1979)
- 39) 現代教育科学 8，No.333，明治図書 (1984)
- 40) 石部元雄他編：心身障害辞典，福村出版 (1981)
- 41) 宮城まり子：戦仕度の日々——ねむの木の子どもたちと，日本放送出版協会 (1981)
- 42) アサヒグラフ 7月29日号 (1983)
- 43) 山田和夫監修：映画の事典，合同出版 (1978)
- 44) 小林秀雄：考えるヒント，文芸春秋 (1964)
- 45) 世界大百科年鑑 1983，平凡社 (1983)
- 46) 伊藤道人編集：現代人物事典，朝日新聞社 (1977)
- 47) 高見山大五郎：あたってごだけろ！——高見山の泣き笑い土俵人生，講談社スコラ (1984)
- 48) レスター・C・サロー著，佐藤隆三訳：デンジャラス・カレンツ——流砂の上の現代経済，東洋経済新報社 (1983)

#### 掲載した写真の出所

- 映像 1 朝日新聞社編：朝日新聞報道写真集'84，9，朝日新聞社 (1984)
- 映像 2 高峰秀子：わたしの渡世日記 (下)，171，朝日新聞社 (1976)
- 映像 3 伊藤整他編集：日本現代文学全集，68，青野秀吉・小林秀雄集，講談社 (1962)
- 映像 4 中日新聞開発局編：報道写真 1984，中日新聞社 (1984)
- 映像 5 斎藤喜博：教育の演出，8，明治図書 (1963)
- 映像 6 佐野寧編集：読売報道写真集 1984，53，読売新聞社 (1984)
- 映像 7 参考文献 48) デンジャラス・カレンツ，裏表紙